
寄り道・戦争

蜻蛉切り

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

寄り道・戦争

【Nコード】

N0628Y

【作者名】

蜻蛉切り

【あらすじ】

実際最初にピクシブに投稿したものです 向こうでは照る照るでやっとなります。

内容的には俺が主人公でその主人公が戦場を通じて

今の世界で酷使されている人々の命などの重い内容を考えたりしたりしなかったりと
そんな感じですよ！！

明るい日

「空が蒼いなあ」本心から僕はそう思っていた。

その時はかなり疲労していたこともあったかもしれないが、模擬練習の事なんて忘れられるくらい、

本当にそれくらいあの時の空はきれいだったのかもしれない。

そんなことを考えていた直後。

頭にふいに激しい振動が響く。口から意味不明なうめき声と共に唾液が宙を舞う。

続けて腹部に二回。

あまりの痛みに地面をはいずり回る。

「お前なあ、模擬中に何考えてんの？マジで、あたしじゃなくて教官だったらあんた死んでるからね。次そんな事してたらねえ、手前のいちもつこの世から消してやるからな。覚悟しとけ」 そんな暴言を笑いながら吐くのは、

私の上司であり、良い飲み仲間。年は俺より2つ上の女としては話しやすい部類に入る奴だ。

本名 ジェレル・ルブラン

俺が小学校の時から付き合いだ。

昔のことはまた今度話そう。

生きていたらだけど。

その後なんやかんやで話を付けて、今夜一緒に飲むって事で合意、許してもらえた？のなあ。

隊長にも話さないとなあ。

長い夜が更けていく、この胃袋の底がないんじゃないかと思うほど大量に酒を飲む女のせいで

眠気も覚めた、本当に最悪な休日だ。

そんな俺を無視して後ろの席に座ってるイケメンを口説き始める我が上司。

「あ、あんたいい男じゃん！！何処の所属なのお？」
この女にすかれたが最後、ほとんどの男は人生を棒に振るのだ。
俺のように。」

紹介を忘れてたなあそついやあ。　ここは　サーカムテラ・ステイ
ション

通称　俺達のゴミ箱

世間体では「最悪の宇宙のゴミ」
と呼ばれる、誇り高き我が社。

正式名称　スマイル&スマイル社

社訓　お客様の道化師　お金のための愚人。

世界最大　戦争請負人

実際知らない人の方が多いが、現在の戦争では人は死なない。

酷使されるのは、我々のようなナノスーツを着たほぼ無敵の兵士と
一世紀前では考えられなかったような超高速で飛び回る「球体型

爆撃機　HHB」やゲーム「メタルギア」に

出てくるような　見るからに中2臭くて非人道的

とか言えるような、ものばっかだ。

今回の仕事もそう中南米にある旧S&S社の内部に格納されていた
国際条約違反兵器の破壊

つまり、持っていた形跡をけしてねって言うことだそつだ。

暗い日（前書き）

明るい日の続きです

暗い日

ここ中南米辺りにくると 指揮官 隊長格の人間になりたいと無性に思ってしまう

それは、ナノスーツの性能によるもので、俺達サラリーマン兵士じゃない、これを生業としている

雇用社員は入社時から半年の研修をおえ各々に

狂鬼の仮面と言われるものと、それに連動するナノスーツを受け取る。

これは、他の物体、例えば弾丸とかそんな感じのは

正直ナノスーツにはダメージとして皆無、でも俺達人間には模擬弾が当たった位に痛いし、

それによって後の動作に狂いが出る、だから狂鬼の仮面と連動させることによって、

フルに使って三時間、物質の動きを10分の1に押さえられるらしい。

でも使用後は凄まじい筋肉痛と関節痛にみまわれるから緊急時以外での使用が禁じられてるんだけどな。

でも 上官クラスになると24時間以上使えてしかも、水の中でも砂漠の真ん中でも

内気温が同じって、ふざけてないか？

しかも、何とかシールドとか付いてる噂だし。

「噂は噂よ。」

後ろからのいきなりの声で体が前に倒れそうになるのを押さえながら耐える俺を見て

彼女は大笑。「何で、俺がこんな目に遭わなきゃいけないの？そう神様に聞いてみたい。」

「なにいつてんの？こんな美人が隣に居てあげてるのに？」

本気で言っているようで、ドン引きするのはやめた。

俺の気持ちなど考えもしない彼女はまた話し始める、今度は俺の部署移動の話らしい。

「どうやら俺の悪い予想は当たりついに彼女と同じ舞台上で踊る道化になっちゃったようだ。」

「おめでとう！私の下で働いてもらうから、明日からあなたの方ノスーツは攪乱部隊 設置班用の高速型、光化学迷彩付きになったのバスルームは覗かないでね」

そしてウインク、他の男どもが見たら悩殺だろうが、この女の本性を知れば覗きなど絶対にできないだろう。

「翌日俺の新しい方ノスーツと一緒に来たのは、凄く哀れな知らせ今日の朝早くにルブランの部屋に方ノスーツを着て入っていった男が数名」

血祭りに上げられたとのこと。

教えてくれたのは彼女本人。

これでうちの部隊の人数は5人になってしまった

一人目優秀なうちのリーダー 多分素手でライオンに勝てる人。

そして例の彼女

残り俺を含めた選抜エリート君たち

今回のミッションはどうやら新米の人事異動後の実力テストと言ったところだろう。

そんなことを考えていると隊長が今回のプランを話し始めた、この怠さは多分一世紀かわっていないだろうなあ。

「今回のプランはこうだ、うちの隊の新米3人とルブラン。お前からまずキューブの4ヶ所の支柱にc4をつける30秒でだ」

「っえ？」思わず口から声が出てしまった、何故って。

30秒で支柱にc4をつけるなんて方ノスーツのハイスピード状態でも不可能だ。

しかし、その不安は一瞬で消えた。

渡された爆薬が遠距離から発砲するタイプのものだ、これなら30

秒で可能だ。

何故そんなにスピーディにやらなくてはならないかというと。

今回の爆破目標は空気振動やなんやらで、人を感知してぶっ殺す兵器だそうだ、それが逃げている一般人でも赤ん坊でも。

そういうことで開発後すぐに、使用ができなくなったんだけど破壊もできなくて、ナノスーツが開発されたから。

んじゃあ壊そうって事になったらしい。

尻拭いをする俺達の身にもなってほしい。

「建物はデイマタフ制のツルツルとした外觀ですでに突撃班が丸く穴をあけて進入した後のようだ。」

エリート君達は緊張した顔でそこに流石隊長と言う感じでリーダーが

「今回の仕事が一段落付いたら良い女でも紹介してやるよ。だから死なないでくれな」薄い笑み。

隊長のこの言葉でエリート君達も少しはやんわりしたようだ。

彼らにルブランはやめとけっっていわないとなあ

彼らを地獄に落とすわけにはいかないだろう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0628y/>

寄り道・戦争

2011年10月30日23時59分発行